

3-4

ゆとりあるゆとりえの暮らし

職員がゆとりを持って入居者に寄り添える入浴革命

業務改善

入居者主体

特別養護老人ホーム ゆとりえ

介護職員 伊東 正明

菊池 政之

東京都武蔵野市吉祥寺南町4-25-5

小松 里絵

TEL:0422-72-0311

E-mail yutorieday@parkcity.ne.jp

FAX:0422-72-0321

URL

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

開設13年目の施設で、現在の平均要介護度4.2。浴室は檜個別浴槽3つ、機械浴槽1つで、入居者の3分の2の方が個別浴槽を利用されています。

<取り組んだ課題>

- 特養の入浴は、他部署が浴室を利用する関係で週4回午後のみに限られ、違うフロアに浴室があるため、開設以来4人の職員で担当してきた。(4人の内訳は中介助2名、着脱1名、誘導1名)
- 入居者の重度化に伴い、入浴時間にフロアに残る職員の業務が過密になってきた。特におやつ時間の援助のあわただしさが増加し、嚥下困難者が多いため誤嚥のリスクが高くなってきた。
- 限られた職員数を有効・効率的に配置できないかと検討を行い、入浴介助もフロア業務も、安全におやつ・水分介助が実施できるように職員配置を変更。入浴担当を4名から3名に減らし、マンツーマン方式を取ることで、フロア担当職員を1名増やすことを検討した。しかし、入浴時間を増やすことは出来ないため、マンツーマンを基本としながら限られた時間の中で効率的に介助を行う方法に取り組んだ。

<具体的な取り組み>

- 基本はマンツーマンとするが、誘導、浴槽内の見守りなど、一人の職員が複数の入居者を担当できる部分は実施し、2人介助が必要なところは適宜協力する流動的なマンツーマン方式を取り入れることで、安全かつ効率的に入浴介助を行えないか試行した。
- 検討委員会を設置し、委員会メンバーで2ヶ月間実施して問題点を確認した。

- 3人と限られた人数で、安全に協力して行うために、リーダー職員を決めてリーダーが全体を把握して的確な指示を出すこと、リーダー以外の職員もお互いの動きを把握して動くこと、時間短縮するための物理的工夫など、解決すべき課題が明らかになった。
- 3ヶ月目からは委員会メンバー2人と他の職員1名、4ヶ月目からは委員会メンバー1名と他の職員2名と徐々に全員が経験を積める方法を取り、他の職員からの意見も聞くことで、具体的な注意点が明らかになった。
- 介助に当たっての約束事を取り決め(マニュアル作成)、未然に事故を防げる対応を取った。

<活動の成果と評価>

- 検討から完全実施まで半年かかったが、段階を踏んで実施をしたことで、全員が一定レベルまで習得できた。
- ・終了時間のずれ込みが予想されたが、概ね時間内で実施できている。
- ・脱衣室での待ち時間がなくなったことで、入居者を待たせずに、すぐに入浴できるようになった。
- ・入浴時間にフロア業務を担当する職員を1名捻出出来た事により、時間に追われる事なく、嚥下困難な入居者にもゆとりを持って、おやつ・水分介助が行えるようになった。さらに、入居者への余暇援助、同行買い物、個別対応などに対応できる余裕が生まれた。

<今後の課題>

- ・職員間のチームワークの更なる向上。
- ・安全面での強化⇒トラブル発生時などの対応。
- ・安定したフロア職員体制の中での生活援助の質の向上。